

組織づくり、人材育成のための研修会や講習会などの開催が行われている。

これらの取組により、行政と民間団体という連携・協力とともに、民間団体同士の取組の情報の共有化と具体的な食育の取組の連携も期待される。

(2) つくって、食べて、伝え合う食育

平成25年度に地域に根ざして継続的な取組を行っている民間団体の事例を収集し、団体の推進体制や他の団体との連携体制、取組内容や評価や成果、今後の課題などについて事例を取りまとめた。

事例に取り上げた団体では、生産者（農林漁業関係者）、栄養関係者、教育関係者、保育関係者、環境の関係団体、自治会など多数の地域の関係者と連携し活動を行っており、各団体がめざす理念や取組の方針などについて相互理解を図り、取組の成果や結果を共有することを重視している様子が見受けられる。

取組内容は、農産物を栽培・収穫し、調理してみんなで一緒に食べ、さらに、地域で育まれてきた知恵を伝え合い、また次世代に伝えるといった「つくって、食べて、伝え合う」一連のつながりを意識しつつ、その中で各団体の特徴ある取組を実施し、参加者たちが共に学び、考えるものとなっている。特に、地域で育まれた食文化や地域の食材や料理を次世代へ伝えることを意識して取り組んでいる

様子が伺える。

さらに、継続的・効果的な取組を推進するために、民間団体においても、参加者の意識や行動の変化などをアンケート調査を用いて、定量的あるいは定性的に評価し、取組の成果を確認し次の取組の見直しにいかしている様子が見られる。なお、行政の補助金や企業からの協賛金などにより運営している団体もあるが、活動資金の確保を課題としてあげる団体が多く、活動を広くアピールし賛同者を増やしていくことが必要であると考えられる。

また、今後は、民間団体同士が連携して、住民一人一人がそれぞれの生活の中で食育の取組を「実践」につなげていけるような食育に関する取組を推進していくとともに、それらを支える社会環境を整えていくことが重要である。

第2節

地域に根ざした民間団体の取組事例

地域に根ざした民間団体の取組事例として、ここでは地域の中で関係者と連携して取組を行っている9件の団体の事例を紹介する。地域の特性を生かしながら、「つくって、食べて、伝え合う」一連のつながりを意識しつつ、それぞれに関わる幅広い関係者がつながり、国民一人一人の食育の実践につながる充実した内容の取組が全国で展開されていくことが期待される。

事例一覧

団体名	所在地	団体の概要
コンサドーレ札幌 (株式会社 北海道フットボールクラブ)	北海道	プロサッカークラブ、JA、大学、教育委員会との「相互協力協定」で食育を推進 ● Jリーグに加盟するプロサッカーチーム運営会社 ● 食育活動開始時期：平成18年12月
株式会社 マルト	福島県	社内に「食育推進室」をつくり、食の安全・安心等の社会貢献に取り組む ● 食品を扱うスーパーマーケット（福島県いわき市24店舗、茨城県10店舗） ● 食育活動開始時期：平成15年度、平成21年度に食育推進室を設置
特定非営利活動法人 食育研究会Mogu Mogu	埼玉県	専門家のサポーターとともに「命をいただくこと」の学習を展開 ● 食育に関心がある乳幼児を抱える母親たちが集まり設立したNPO ● 食育活動開始時期：平成12年、平成15年にNPOとなる
特定非営利活動法人 ユー&ミーの会	新潟県	生ゴミの回収、堆肥化、農業体験で「食の循環」を学ぶ取組 ● 家庭から出されるゴミに関心を持つ主婦が集まり設立したNPO ● 食育活動開始時期：平成15年にNPOとなり、平成16年から食育活動開始
株式会社 伊賀の里モクモク手づくりファーム	三重県	「全国食育交流フォーラム」を開催し、「つくる技術、食べる技術、伝える技術」をみんなで考える ● 牧場の運営と食品の生産・加工・流通販売 ● 食育活動開始時期：昭和62年
特定非営利活動法人 日本料理アカデミー	京都府	日本料理の料理人が食文化を次世代に伝える ● 京都市内に拠点を持つ日本料理店の店主や調理学校関係者らが設立したNPO ● 食育活動開始時期：平成17年7月、平成19年にNPOとなる
絵本と食育 「はらぺこあおむし」	鳥取県	絵本を活用して、家族で食卓を囲む大切さや食文化を子どもに伝える ● 管理栄養士、保育士などの資格を持つ子育て中の母親が集まったボランティア団体 ● 食育活動開始時期：平成21年
特定非営利活動法人 イーティングラブサークル Eating Love Circle	福岡県	学んだ知識をみんなに伝える高校生の取組 ● 福岡県立農業高校食物科学科3年生が主体のNPO ● 食育活動開始時期：平成21年
特定非営利活動法人 霧島食育研究会	鹿児島県	「霧島・食の文化祭」で食文化や伝統料理を伝える ● 霧島在住の管理栄養士や農家等構成されるNPO ● 食育活動開始時期：平成16年、平成17年にNPOとなる

事例 プロサッカークラブ、JA、大学、教育委員会との「相互協力協定」で食育を推進

コンサドーレ札幌（株式会社 北海道フットボールクラブ）（北海道）

「相互協力協定」で食育を推進

コンサドーレ札幌は、食の大切さや子どもの健康増進、スポーツを行う子どもたちの体づくりについて見直す必要性を感じ、北海道の子どもたちやその親に、スポーツ選手が強くなるために必要な3大要素「トレーニング」「栄養」「休息」や、食べることの大切さ、食に対するリスペクトなどについて伝えるため、全道で食育活動を展開している。

子どもの「学力や体力の向上」、「食育」の推進等に取り組むため、コンサドーレ札幌では、JAグループ北海道、北海道教育大学、北海道教育委員会と「相互協力協定」を締結し、4者がそれぞれ連携して地域に根ざした取組を行う体制をつくり、協力を深めている。この相互協力協定の意義は、一過性のものではなく、継続的な活動を続けていくために結ばれているところにある。この4者協定では、北海道の財産を活かして、食育のメインターゲットである次世代を担う子たちとその親たちへ、どのように「食」のメッセージを伝えていくか、というテーマを団体間で共有し、息の長い、充実した関係を構築していくことを重視している。また、異業種が連携して活動することで、さまざまな方面のメディアへの発信にもつながっている。

選手と一緒にスポーツと食育を学ぶ

4者協定による食育の取組は、北海道の子どもたちを健全に育成することを目的とした「輝け★北海道の子どもたちプロジェクト」の中で、「食育推進プロジェクト」として位置付けられている。このプロジェクトでは、農作業、農作物や運動を通して、全道でスポーツ振興や食育学習についての活動を地域の様々な資源を活用して行っている。

「サッカー＆食育教室」では、「子どもの体力づくり」「スポーツと食育」の2つをテーマとし、サッカー選手たちによるジュニアサッカー教室と管理栄養士による保護者、指導者向けの食育セミナーを行っている。セミナーは、健康な体づくりのための食事のあり方や地産地消などについて、親子一緒に学ぶことができる内容となっている。選手の参加者への影響力は非常に大きく、選手が直接子どもに語ることで、一緒に活動することで子どもの心に響き、効果が発揮されている。

また、当団体は、「『つくる喜び、食べる幸せ』をともに感じよう！」をスローガンに「食と農」を考える農園として「コンサ・土・農園（コンサ・ド・ファーム）」を開園した。この農園は、サポーターと選手たちとが一緒に農作業を行い、収穫した作物のチャリティー販売を行うなど年間を通した活動を継続的に行うための拠点となっている。

北海道全体に普及啓発するためには、様々な主体との協力が必要であるので、今後も引き続き関係団体間の連携を重視し継続していくこととしている。



「サッカー＆食育教室」での
選手との交流



「コンサ・土・農園」での農作業

事例 社内に「食育推進室」をつくり、食の安全・安心等の社会貢献に取り組む

株式会社 マルト (福島県)

社内に「食育推進室」をつくり社会貢献に取り組む

当社は、食品販売業者（食品を扱うスーパーマーケット）として、地域に根ざした企業である。当社では、食品を扱う企業であることから消費者の食生活と健康を担い、安全・安心な食品を提供することが地域への責務と考え、社会貢献の一環として食育に取り組んでいる。当社の食育の取組は、消費者の方々によりおいしく食べていただき、より健康的な食生活を送っていただくことにより、長生きをしてもらえるようサポートすることを目的としており、食育の取組の成果を売り上げに直結して考えてはおらず、あくまでも地域貢献として位置づけている。社内につくった「食育推進室」では、店舗のある福島県、茨城県での食育の活動、社員への健康と食に関する情報提供などの社内啓蒙活動などを行っている。当社には、自分の意見を自由に主張し、改善していく社風がある。そのため、社員自らが、より新しいものやより良いものを吸収し、消費者の方々により楽しくより良い食育の活動を提供できるように提案してきている。当社では、福島県、いわき市健康保健部局や教育委員会などの行政、食品メーカーなどの食品関連事業者と連携を図りながら食育の活動を行っている。

家庭の味を教える「お弁当コンテスト」や「ふくしまの恵み安全・安心食育推進活動」を通じた健康づくり

これまで当社では、食育の取組として、幼児を対象としたチャレンジクッキング、ご来店頂いたすべてのお客様を対象とした健康相談会、工場見学などを継続的に行ってきた。取組内容が体験型活動であることから、「楽しく学べた」、「また来たい」といった参加者の声も多く、参加者もリピーターも増えてきている。

平成25年度には初めて「お弁当コンテスト」を実施した。このコンテストは、親子でふれあいながら一緒に弁当を作ることを通して、家族の団らんや家庭の味を教える時間を確保し、また、学校の皆とともに、自分で作ったお弁当を食べることで「生きる」基本となる食について考える機会を持つこと、食文化の継承、伝統料理の普及啓発を図ることを目的として行った。社長自らがいわき市教育委員会に働きかけを行い、市内全小学校に応募用紙を配布するなどの連携が実現した取組である。

また、福島県の委託事業「ふくしまの恵み安全・安心食育推進活動」^{※1}として、福島県産の様々な食材を使い“ハレの日”にふさわしいこだわりのレシピで「“ハレの日”お弁当料理教室」を開催するなど、「食の安全・安心」を通じた地域住民の健康と体力づくりにも積極的に取り組んでいる。

平成25年9月には「福島県食育応援企業団」^{※2}に加入し登録認証されたことから、今後は福島県や市町村が行う食育活動への協力も積極的に行うこととしている。



「お弁当コンテスト」ポスター



「チャレンジクッキング」の様子

※1 「ふくしまの恵み安全・安心食育推進活動」（福島県委託事業）

福島県産農産物等の信頼回復と消費者の安心確保を図るため、放射性物質対策を含めた県内産地の農産物等の安全確保の取組に関する消費者の理解促進等の食育推進活動を行う。

※2 「福島県食育応援企業団」

福島県が平成25年に設置した食育の取組を応援する企業応援団。福島県内で、食育に関する様々な活動を行う企業が応援団に加入し、ふくしまの食育を推進する組織。福島県が行う「ふくしまのおいしい『食』で元気になる食育プロジェクト」活動への協力や、企業による自主的な食育の取組の実施、県や市町村が県内で実施する食育活動への応援団としての協力などを行う。

事例 専門家のサポーターとともに「命をいただくこと」の学習を展開

特定非営利活動法人 食育研究会 Mogu Mogu (埼玉県)

幅広いネットワークとサポーターで食育を展開

当団体は、誰かと「おいしさ」を共有することが、食生活における幸せにつながると考えており、そのような体験ができる場を作っていくことを目的として食育の取組を行っている。活動のスローガンは、「おいしいね。を応援する」である。食を大切にしたい気持ちを持ち、「体験を主体に」、「楽しい思い出になる」ようにし、「続ける、繰り返す」をテーマに、子どもの成長と共にやってきて、今では社会的存在であり続けたいと考える仲間が中心となって運営を続けている。当団体では、「食品（素材&加工品）を上手に選ぼう、買おう」「栄養のことを正しく知ろう」「料理ができるようになろう」「楽しく食べよう（心の栄養）」「自分のまわりの旬や行事、食文化を知ろう」を柱として食育に取り組んでいる。

活動は、自主企画のものほかに、幼稚園、小学校、各地域の公民館などからの依頼により各種教室、講演会などを随時行っている。実施にあたっては、行政や農業関係者、教育関係者、食品関連事業者、住民自治組織、NPOなどとの連携のほか、企画の内容によってはサポーター登録をしてもらっている各方面の食の専門家（料理人、養殖場経営者、農家、医師、大学教授等）にサポートしてもらう体制を作っている。

「命をいただくこと」の学習

当団体は、小学生とその保護者を対象に、「鶏」「魚」を用いて「命をいただくこと」の学習を約10年にわたり継続して実施している。学習内容は、生きていくためには命をいただかなければならないこと、そして命をいただいていることへの感謝について学べる体験活動である。冬には鶏生産者の協力のもと、鶏を解体し、自分たちで鶏を料理して食べる会を開催し、夏には養殖家の協力のもと、魚つかみでつかんだ魚を塩焼きにして食べるまでの体験会を実施している。

また、県内の小学校では、当団体と生産者やプロの料理人とが一緒に、食べ物を五感・五味で感じ、野菜の好き嫌いをできるだけ減らすことをテーマに、そのきっかけとなる気づきを提供する授業を実施している。

活動に参加しながら育った子どもたちの中には、中高大学生となり補助として活動に参加する者や、食の分野へ進学する者なども出てきている。

今後は、活動の理念を具現化できる拠点と安定的な活動を行うためのシステムとして、どんな人も「おいしいね」とくつろげ、会話でき、時が過ごせる場所づくりをしていきたいと考えている。



鶏一羽を解体して、
食材にも命があることを実感



地域の産物を教材に、
「野菜の見方を変える」授業